



Cisco IP Phone電話の通話診断と品質レポートを設置する

- [診断およびレポートの概要 \(1 ページ\)](#)
- [前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [Diagnostics and Reporting の設定タスク フロー \(3 ページ\)](#)

診断およびレポートの概要

Cisco Unified Communications Manager には、Cisco IP Phone の通話品質を保証するためのオプションが2つあります。

- コール診断: コールの診断には、コール管理レコード (CMR) と音声品質メトリックの生成が含まれています。
- 品質報告ツールQRT-QRTはCisco Unified IP電話の音声品質と一般的な問題報告ツールです。このツールを使用すると、ユーザはIP電話に音声やその他の一般的な問題を簡単に、かつ正確にレポートできます。

コール診断の概要

コール診断を収集するために、SCCP と SIP を実行している Cisco IP Phone を設定することができます。通話診断には、診断記録とも呼ばれる通話管理記録(CMR)と音声品質指標が含まれる。

音声品質メトリックは、デフォルトで有効になっており、ほとんどの Cisco IP Phone でサポートされています。Cisco IP Phone は、MOS (平均意見四つ角) 値に基づいて音声品質メトリックを計算します。音声品質メトリックでは、ノイズや歪みは考慮されません。フレーム損失だけが考慮されます。

CMR レコードには、コールの音声ストリームの品質に関する情報が格納されます。CMR を生成するように Unified Communications Manager を設定できます。この情報は、請求レコードの生成やネットワーク分析などの後処理活動に使用できます。

品質レポートツールの概要

品質レポートツール（QRT）は、Cisco IP 電話の音声品質と一般的な問題をレポートするツールです。このツールを使用すると、ユーザはIP 電話に音声やその他の一般的な問題を簡単に、かつ正確にレポートできます。

システム管理者は、ユーザの IP 電話に QRT ソフトキーを表示するソフトキーテンプレートを設定して割り当てることで、QRT 機能を有効化できます。QRT を使用して行うユーザインタラクションのレベルに応じて、2つの異なるユーザモードを選択できます。次に、システムにおける機能の動作を定義するため、システムパラメータを設定し、Cisco Unified Serviceability ツールを設定します。QRT Viewer アプリケーションを使用して、電話の問題レポートを作成、カスタマイズ、および表示できます。

ユーザの IP 電話で問題が発生した場合、ユーザは、コールの状態がオンフックまたは接続済みのときに Cisco IP 電話の QRT ソフトキーを押すことで、問題のタイプとその他の関連統計をレポートできます。ユーザは IP 電話で報告されている問題を最もよく表している理由コードを選択できます。カスタマイズされた電話の問題レポートには、具体的な情報が表示されます。

ユーザが QRT ソフトキーを押して問題の種類を選択すると、QRT はストリーミングの統計情報を収集しようとします。ストリーミングの統計情報を収集するには、QRT でコールを5秒以上アクティブにする必要があります。

前提条件

コール診断の要件

Cisco Unified IP Phone がコール診断をサポートしているかどうかを確認します。

次の表を使用して、電話機がコール診断をサポートしているかどうかを確認します。コール診断の凡例は、次のようにサポートされています。

- X : SCCP と SIP の両方を実行している電話機によるサポート
- S : SCCP 機能のみ

表 1: コール診断のデバイスサポート

デバイス	コール診断のサポート
Cisco Unified IP Phone 7906	X
Cisco Unified IP Phone 7911	X
Cisco Unified IP Phone 7931	X
Cisco Unified IP Phone 7940	S

デバイス	コール診断のサポート
Cisco Unified IP Phone 7941	X
Cisco Unified IP Phone 7942-G	X
Cisco Unified IP Phone 7942-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7945	X
Cisco Unified IP Phone 7960	S
Cisco Unified IP Phone 7961	X
Cisco Unified IP Phone 7962-G	X
Cisco Unified IP Phone 7962-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7965	X
Cisco Unified IP Phone 7972-G/GE	X
Cisco Unified IP Phone 7975	X

品質レポートツールの要件

Cisco IP電話の機能：

- ソフトキー テンプレートのサポート
- IP Phone サービスのサポート
- CTI による制御が可能
- 内部 HTTP サーバを含む

詳細については、お使いの電話モデルのガイドを参照してください。

Diagnostics and Reporting の設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	コール診断の設定 (4 ページ)	このタスクを実行すると、CMR を生成するように Cisco Unified Communication Manager を設定できます。CMR レコードには、コールの音声ストリームの品質に関する情報が格納されます。CDR へのアクセスの詳細については、『Cisco

	コマンドまたはアクション	目的
		<p><i>Unified Communications Manager Call Detail Records</i> アドミニストレーションガイド』を参照してください。</p> <p>音声品質メトリックは、Cisco IP Phone で自動的に有効になります。音声品質メトリックへのアクセス方法の詳細については、ご使用の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド』を参照してください。</p>
ステップ 2	<p>品質レポート ツールの設定 (5 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • QRT ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの設定 (6 ページ) • 共通デバイス設定と QRT ソフトキー テンプレートの関連付け (7 ページ) • 電話機への QRT ソフトキー テンプレートの追加 (9 ページ) • Cisco Unified Serviceability での QRT の設定 (10 ページ) • 品質レポートツールのサービスパラメータの設定 (13 ページ) 	<p>品質レポートツール(QRT)を設定して、IP phone で問題が発生したユーザが、QRT ソフトキーを押すことによって、問題のタイプやその他の関連統計情報をレポートできるようにします。</p>

コール診断の設定

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから、Cisco CallManager サービスを実行しているサーバを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco CallManager] を選択します。
[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (デバイス - 全般) (Clusterwide Parameters (Device - General))] エリアで、[コール診断有効 (Call Diagnostics Enabled)] サービス パラメータを設定します。次のオプションを使用できます。
 - [無効 (Disabled)] : CMR は生成されません。

- [CDR有効フラグが True の場合のみ有効化 (Enabled Only When CDR Enabled Flag is True)] : [呼詳細レコード (CDR) 有効化フラグ (Call Detail Records (CDR) Enabled Flag)] サービスパラメータが True に設定されている場合のみ、CMR が生成されます。
- [CDR 有効化フラグに関係なく有効化 (Enabled Regardless of CDR Enabled Flag)] : [CDR 有効化フラグ (CDR Enabled Flag)] サービスパラメータの値に関係なく、CMR が生成されます。

(注) [CDR有効化フラグ (CDR Enabled Flag)] サービスパラメータを有効にせずに CMR を生成すると、制御されずにディスク容量が消費される場合があります。CMR を有効にする場合は、CDR を有効にすることをお勧めします。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

品質レポート ツールの設定

品質レポートツール(QRT)を設定して、IP phone で問題が発生したユーザが、QRT ソフトキーを押すことによって、問題のタイプやその他の関連統計情報をレポートできるようにします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	QRT ソフトキーを含むソフトキーテンプレートの設定 (6 ページ)	QRTソフトキーのオンフック状態と接続済みコール状態を設定する必要があります。次のコール状態も利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 接続された会議 • 接続転送
ステップ 2	(任意) 共通デバイス設定と QRT ソフトキーテンプレートの関連付け (7 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 共通デバイス設定への QRT ソフトキーテンプレートの追加 (8 ページ) • 電話機と共通デバイス設定の関連付け (9 ページ) 	ソフトキーテンプレートを電話でできるようにするには、この手順か次の手順のいずれかを実行する必要があります。システムが [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従います。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。
ステップ 3	(任意) 電話機への QRT ソフトキーテンプレートの追加 (9 ページ)	次の手順は、ソフトキーテンプレートと共通デバイス設定を関連付けるための代替手段として、または共通デバイス設定と共に使用します。ソフトキーテン

QRT ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの設定

	コマンドまたはアクション	目的
		プレートを適用して、共通デバイス設定での割り当てや、他のデフォルトのソフトキーの割り当てを上書きする必要がある場合は、次の手順を共通デバイス設定と共に使用します。
ステップ 4	<p>Cisco Unified Serviceability での QRT の設定 (10 ページ) を行うには、次のサブタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Extended Functions サービスの有効化 (10 ページ) • アラームの設定 (11 ページ) • トレースの設定 (12 ページ) 	
ステップ 5	(任意) 品質レポートツールのサービスパラメータの設定 (13 ページ)	

QRT ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの設定

QRTソフトキーのオンフック状態と接続済みコール状態を設定する必要があります。次のコール状態も利用できます。

- 接続された会議
- 接続転送

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] を選択します。
- ステップ 2** 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - デフォルトのテンプレートを選択して、[コピー (Copy)] をクリックします。
 - [ソフトキーテンプレート名 (Softkey Template Name)] フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** 既存のテンプレートにソフトキーを追加するには、次の手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
 - 必要な既存のテンプレートを選択します。

- ステップ 4** [デフォルト ソフトキー テンプレート (Default Softkey Template)] チェックボックスをオンにし、このソフトキーテンプレートをデフォルトのソフトキーテンプレートとして指定します。
- (注) あるソフトキー テンプレートをデフォルトのソフトキー テンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。
- ステップ 5** 右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから [ソフトキー レイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** [設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)] ドロップダウン リストから、ソフトキーに表示するコール状態を選択します。
- ステップ 7** [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] リストから追加するソフトキーを選択し、右矢印をクリックして [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] リストにそのソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。
- ステップ 8** 追加のコール状態でのソフトキーを表示するには、前述のステップを繰り返します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10** 次のいずれかの操作を実行します。

- すでにデバイスに関連付けられているテンプレートを変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
- 新しいソフトキーテンプレートを作成した場合は、そのテンプレートをデバイスに関連付けた後にデバイスを再起動します。詳細については、「共通デバイス設定へのソフトキーテンプレートの追加」と「電話機のセクションとソフトキーテンプレートの関連付け」を参照してください。

次のタスク

次のいずれかの手順を実行します。

- [共通デバイス設定への QRT ソフトキー テンプレートの追加 \(8 ページ\)](#)
- [電話機への QRT ソフトキー テンプレートの追加 \(9 ページ\)](#)

共通デバイス設定と QRT ソフトキー テンプレートの関連付け

(省略可) ソフトキー テンプレートを電話機に関連付ける方法は2つあります。

- ソフトキー テンプレートを電話機設定に追加する。
- ソフトキー テンプレートを共通デバイス設定に追加する。

ここに示す手順では、ソフトキーテンプレートを共通デバイス設定に関連付ける方法について説明します。システムが共通デバイス設定を使用して設定オプションを電話機に適用する場合は、この手順に従ってください。これは、電話機でソフトキーテンプレートを使用できるようにする際に、最も一般的に使用されている方法です。

別の方法を使用するには、「[電話機への QRT ソフトキー テンプレートの追加 \(9 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	共通デバイス設定への QRT ソフトキー テンプレートの追加 (8 ページ)	
ステップ 2	電話機と共通デバイス設定の関連付け (9 ページ)	

共通デバイス設定への QRT ソフトキー テンプレートの追加

始める前に

[QRT ソフトキーを含むソフトキー テンプレートの設定 \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択します。
- ステップ 2** 新しい共通デバイス設定を作成し、それにソフトキーテンプレートを関連付けるには、この手順を実行します。それ以外の場合は、次のステップに進みます。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [名前 (Name)] フィールドに、共通デバイス設定の名前を入力します。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** 既存の共通デバイス設定にソフトキーテンプレートを追加するには、次の手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックして、検索条件を入力します。
 - 既存の共通デバイス設定をクリックします。
- ステップ 4** [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] ドロップダウンリストで、使用可能にするソフトキーが含まれているソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** 次のいずれかの操作を実行します。
- すでにデバイスに関連付けられている共通デバイス設定を変更した場合は、[設定の適用 (Apply Config)] をクリックしてデバイスを再起動します。
 - 新しい共通デバイス設定を作成してその設定をデバイスに関連付けた後に、デバイスを再起動します。
-

次のタスク

[電話機と共通デバイス設定の関連付け \(9 ページ\)](#)

電話機と共通デバイス設定の関連付け

始める前に

[共通デバイス設定への QRT ソフトキー テンプレートの追加 \(8 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
 - ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックし、ソフトキーテンプレートを追加する電話デバイスを選択します。
 - ステップ 3** [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ドロップダウンリストから、新しいソフトキーテンプレートが含まれている共通デバイス設定を選択します。
 - ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 5** [リセット (Reset)] をクリックして、電話機の設定を更新します。
-

電話機への QRT ソフトキー テンプレートの追加

始める前に

[QRT ソフトキーを含むソフトキーテンプレートの設定 \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
 - ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、設定済みの電話のリストを表示します。
 - ステップ 3** 電話ボタンテンプレートを追加する電話を選択します。
 - ステップ 4** [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウンリストで、新しい機能ボタンが含まれる電話ボタンテンプレートを選択します。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
電話の設定を更新するには[リセット (Reset)] を押すというメッセージ付きのダイアログボックスが表示されます。
-

Cisco Unified Serviceability での QRT の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco Extended Functions サービスの有効化 (10 ページ)	Cisco 拡張ファンクションサービスをアクティブにすると、品質レポートツールなどの音声品質機能がサポートされます。
ステップ 2	アラームの設定 (11 ページ)	QRT のアラームを設定して、SysLog ビュアー内のアプリケーションログのエラーをログに記録します。この機能は、アラームをログに記録し、アラームの説明と推奨される操作を提供します。 Syslog ビュアーにはCisco Unified Real-Time Monitoring Toolからアクセスできます。
ステップ 3	トレースの設定 (12 ページ)	音声アプリケーションのトレース情報をログに記録するように、QRT のトレースを設定します。QRTのトレースファイルに含める情報を構成したら、Cisco Unified Real-Time監視ツールのトレースとログセンターオプションを使用して、トレースファイルを収集して表示できます。

Cisco Extended Functions サービスの有効化

Cisco 拡張ファンクションサービスをアクティブにすると、品質レポートツールなどの音声品質機能がサポートされます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 サーバドロップダウンリストから、Cisco Extended Functionsサービスを有効にするノードを選択します。
- ステップ 3 Cisco Extended Functionsチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[アラームの設定 \(11 ページ\)](#)

アラームの設定

QRT のアラームを設定して、SysLog ビュアー内のアプリケーションログのエラーをログに記録します。この機能は、アラームをログに記録し、アラームの説明と推奨される操作を提供します。Syslog ビュアーにはCisco Unified Real-Time Monitoring Toolからアクセスできます。

始める前に

[Cisco Extended Functions サービスの有効化 \(10 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability で、**アラーム > 設定** を選択します。
- ステップ 2 サーバドロップダウンリストから、ノードを設定するサーバを選択します。
- ステップ 3 サービスグループドロップダウンリストから、**CMサービス**を選択します。
- ステップ 4 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco Extended Functions] を選択します。
- ステップ 5 ローカルSyslogsとSDIトレースの両方について**アラームの有効化**チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 このドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択し、ローカルSyslogsとSDIトレースの両方に **アラームイベントレベル**を設定します。
 - **緊急** : このレベルは、システムが使用不可であることを示します。
 - **アラート** : このレベルは、ただちに処置が必要であることを示します。
 - **重要** : システムが重要な状態を検出したことを示します。
 - **エラー** : エラー条件が検出されたことを示します。
 - **警告** : このレベルは、警告状態が検出されたことを示します。
 - **注意** : 通常の重要な条件が検出されていることを示します。
 - **情報** : 情報メッセージのみを示す。
 - **デバッグ** : Cisco技術サポートセンター(TAC)エンジニアにデバッグ用の詳細なイベント情報を指示します。

デフォルト値は **Error** です。

- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[トレースの設定 \(12 ページ\)](#)

トレースの設定

音声アプリケーションのトレース情報をログに記録するように、QRT のトレースを設定します。QRTのトレースファイルに含める情報を構成したら、Cisco Unifie Rreal-Time監視ツールのトレースとログセンターオプションを使用して、トレースファイルを収集して表示できます。

始める前に

[アラームの設定 \(11 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から **トレース > 設定** を選択します。
- ステップ 2 サーバドロップダウンリストから、トレースを構成するノードを選択します。
- ステップ 3 サービスグループドロップダウンリストから、**CMサービス** を選択します。
- ステップ 4 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco Extended Functions] を選択します。
- ステップ 5 トレースオンチェックボックスをオンにします。
- ステップ 6 このドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択し、**デバッグトレースレベル**を設定します。

- **エラー** : すべてのエラー状態、およびプロセスとデバイス初期化メッセージを追跡します。
- **特殊** : 通常運転中に発生したすべての特殊な条件とサブシステムの状態遷移を追跡します。コール処理イベントをトレースします。
- **状態遷移** 通常の操作中に発生したすべての状態遷移条件とメディア層イベントを追跡します。
- **重要** : すべての重要条件とルーチンの入り口と出口を追跡します。すべてのサービスがこの追跡レベルを使用するわけではありません。
- **Entry_exit** : すべての入力条件と終了条件、および基礎となるデバッグ情報を追跡します。
- **任意** : すべての条件と詳細なデバッグ情報を追跡します。
- **詳細** : アラート状態とイベントを追跡します。異常なパスで生成されたすべてのトレースに使用します。最小の CPU サイクル数を使用します。

デフォルト値は **Error** です。

ヒント トラブルシューティングのためには、このセクションにあるすべてのチェックボックスをオンにするようにしてください。

- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

(省略可) [品質レポートツールのサービスパラメータの設定 \(13 ページ\)](#)

品質レポートツールのサービスパラメータの設定



注意 Cisco Technical Assistance Center (TAC) の指示があった場合を除き、デフォルトのサービスパラメータ設定の使用をお勧めします。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Managerの管理ページで、**システム > サービスパラメータ**を選択します。
- ステップ 2** QRT アプリケーションが存在するサーバを選択します。
- ステップ 3** **Cisco Extended Functions**サービスを選択します。
- ステップ 4** サービスパラメータを設定します。サービスパラメータとその設定オプションの詳細については、「関連項目」セクションを参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)]をクリックします。

関連トピック

[品質レポート ツールのサービス パラメータ](#) (13 ページ)

品質レポート ツールのサービス パラメータ

表 2: 品質レポート ツールのサービス パラメータ

パラメータ	説明
拡張 QRT メニューの選択肢を表示する (Display Extended QRT Menu Choices)	<p>拡張メニュー選択項目をユーザに表示するかどうかを決定します。次のいずれかの設定オプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • このフィールドを [True] に設定すると、拡張メニュー選択項目が表示されます (対話モード)。 • このフィールドを [False] に設定すると、拡張メニュー選択項目が表示されません (サイレントモード)。 • 推奨するデフォルト値としてFalse (サイレントモード) が設定されています。

パラメータ	説明
ストリーミング統計のポーリング期間 (Streaming Statistics Polling Duration)	<p>ストリーミング統計情報のポーリングに使用する間隔を決定します。次のいずれかの設定オプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドを[-1]に設定すると、コールが終了するまでポーリングが行われます。 このフィールドを[0]に設定すると、ポーリングはまったく行われません。 このフィールドを任意の正の値に設定すると、その秒数の間、ポーリングが行われます。コールが終了すると、ポーリングは停止します。 推奨するデフォルトの値として、-1（コールが終了するまでポーリングを行う）が設定されています。
ストリーミング統計のポーリング頻度（秒） (Streaming Statistics Polling Frequency (seconds))	<p>ポーリング間に待機する秒数を入力します。</p> <p>値の範囲は、30～3600です。推奨するデフォルトの値として30が設定されています。</p>
最大ファイル数 (Maximum No. of Files)	<p>ファイルカウントを再起動し、古いファイルを上書きする前に、最大ファイル数を入力します。</p> <p>有効な値は1~1万です。推奨するデフォルトの値は250です。</p>
1ファイルあたりの最大回線数 (Maximum No. of Lines per File)	<p>各ファイルでの行の最大数を入力します。この数を超えると、次のファイルが始まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値の範囲は、100～2000です。 推奨するデフォルトの値として2000が設定されています。

パラメータ	説明
CTI Managerに安全に接続するためのCAPFプロファイルインスタンスID (CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTI Manager)	<p>CTI マネージャへのセキュアな接続を開くために Cisco Extended Function サービスが使用される、アプリケーションユーザCCMQRTSysUserの CAPF アプリケーションプロファイルのインスタンス ID を入力します。CTI Manager Connection Security Flag パラメータが有効な場合、このパラメータを設定する必要があります。</p> <p>(注) CTI Manager Connection Security Flag サービスパラメータを有効にすることで、セキュリティをオンにします。変更を有効にするためには、Cisco Extended Functions サービスを再起動する必要があります。</p>
CTI Manager接続セキュリティフラグ (CTI Manager Connection Security Flag)	<p>Cisco Extended Functions サービスの CTI Manager接続のセキュリティを有効にするか、または無効にするかを選択します。有効にすると、Cisco Extended Functions はアプリケーションユーザ CCMQRTSysUser のインスタンス ID に設定された CAPF アプリケーションプロファイルを使用して、CTI マネージャへのセキュアな接続を開きます。</p> <p>値は True または False を選択します。CTI へのセキュアな接続を有効にするには、True を選択する必要があります。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。